

経営比較分析表（令和4年度決算）

北海道 美瑛市

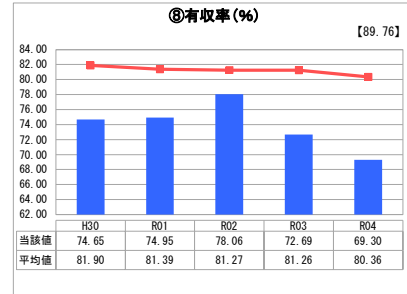
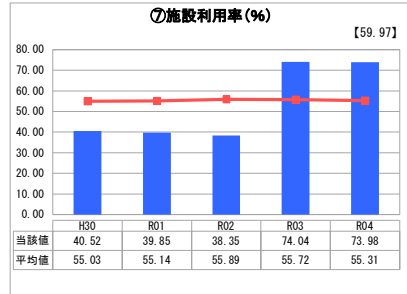
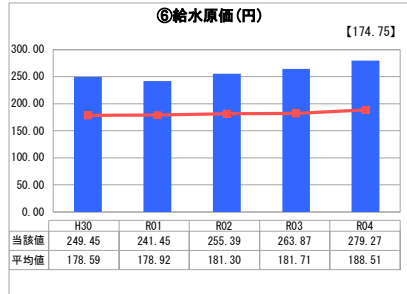
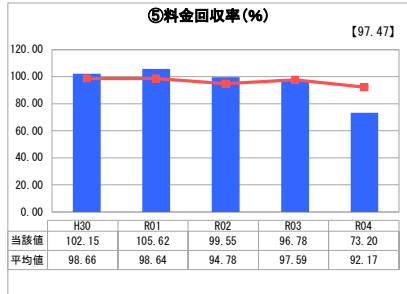
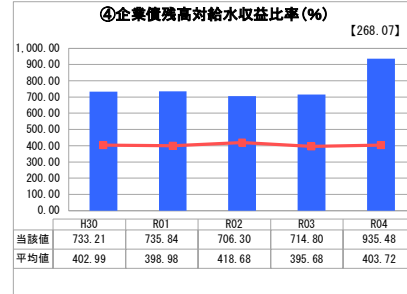
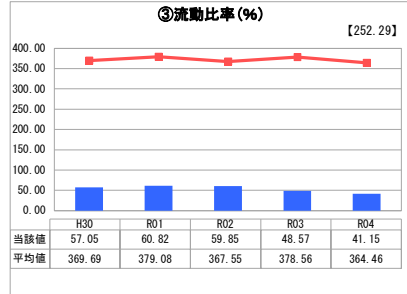
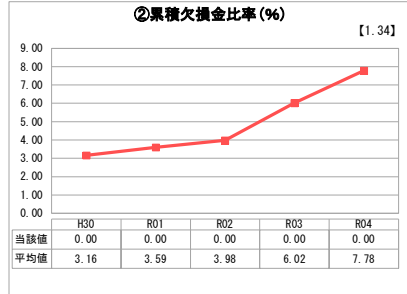
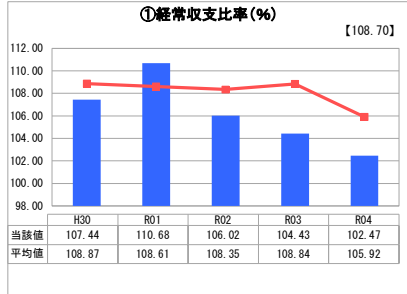
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	42.60	99.84	5,219	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
19,500	277.69	70.22
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
19,301	143.00	134.97

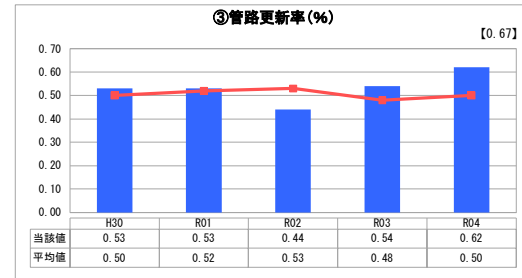
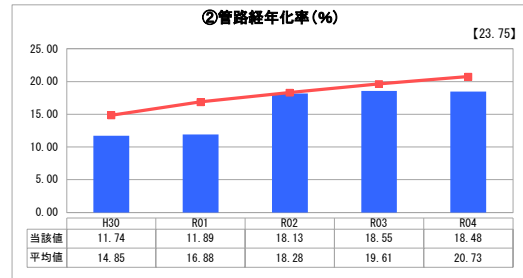
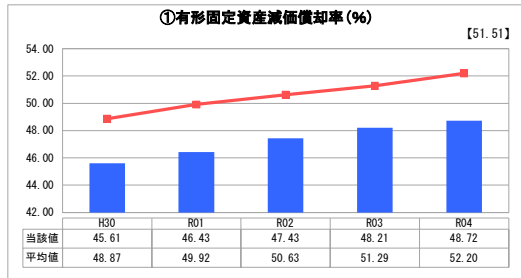
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超えているが、R2年度以降は料金回収率が100%を下回っており、給水に係る費用が給水収益以外の収益で賄われている状況である。特にR4年度はコロナにおける生活支援として基本料金を8か月減免し、一般会計から繰入れたことから料金回収率が7割程度まで落ち込んだ。

流動比率は現金が不足しており100%を下回っているが、建設改良費に充てられた企業債償還を除外すればギリギリ賄えている状況である。

企業債残高対給水収益比率は資金剰余金がないため、水道施設整備に係る費用をすべて企業債に依存しており類似団体と比較して極めて高い状況となっている。

給水原価については、修繕費等の増加に伴い経常費用が増えていることにより、年々増加傾向にある。

有収率については、配水管漏水調査・給水管漏水調査を実施し、漏水修理を行っているものの、類似団体と比較して低い状況である。今後も継続して調査・修理を行い、有収率の向上をはかる。

施設利用率はほぼ横ばいであるが、配水量の減少は今後も続くものと考えられる。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、類似団体とほぼ同程度の数値だが管路以外の資産については耐用年数を超えているものもあり、老朽化対策について検討を要する。

管路更新については、アセットマネジメントにより計画的に更新を進めている状況である。

全体総括

R4年度においては料金の減免分を除いても料金回収率が100%を下回っており、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われている状況であるため、流動比率は類似団体と比較してもかなり低い状況で事業経営が厳しいことを表している。人口減少に伴い料金収入は年々減っており、近いうちに料金改定が必要になる。

また、老朽管路の更新は計画的に進めているが財源をすべて企業債に依存しており、それ以外の施設等については現状では更新が進んでいない状況である。

今後料金収入は減少すると見込まれることから、経営の効率化による経費削減を徹底するとともに、料金の見直しについても検討を重ね、安全で安心な水の安定供給に努めていく。